

今年、15年ぶりにプロ野球巨人軍のユニフォームを着た桑田真澄投手チーフコーチ補佐。

100年を超える高校野球の歴史に名を残すレジェンド。85年秋、プロ野球に進むか早大進学か、世間の注目の的だった。後者であればクラスメートにな

っていた。15歳で夏の甲子園最年少優勝投手、大リーグ

パイレーツで引退する40歳間際まで現役を続け、早稲田大学大学院で

スポーツ科学修士

号、東大硬式野球部の特別コーチ、スポーツ庁参与も経験。

プロ野球選手としては恵まれない体格ながら、野球に取り組む真摯な態度によって、彼を模範とする選手は今なお多い。桑田氏は、長時間練習、指導者への絶対服従、体罰など日本の野

球界特有の体育会系思想を批判し、成長期に合わせたトレーニング方法や喫煙問題も提起。選手へのアプローチでは、自分の考えを先には言わず、選手に話を言わせる環境を作り、とにかく人の話を聞くそうだ。

比べるのは憚られるが、同年の私。関東大会初戦どまりだったが、無名の公立校で中高と

## 幻のクラスメート

—菅 伸彦—

機会を設けるのは、エネルギーもいるが学ぶことも多い。

桑田氏も華

々しいキャリアの中で、高

校入学直後の外野手転向や

バスケットボールに熱中。大学卒業後、2年間の金融機関勤務を経て現社へ。主に技術系職種を歩み、プロキシファイトの結果、社長に就任し早9年、経営不振の状況を立て直す一心で始めた全社員との個別対話を毎年継続している。どうすれば離職を防ぎ、当社で働き続けたいと

思ってもらえるのか、お客さまの期待に答えられているか、経営の持続、雇用の維持、地域貢献、資本政策、株主との対話…。20代から70代後半、役員層からパートの方まで、400名を超える方々と1対1の対話の機会を設けるのは、エネルギーもいるが学ぶことも多い。

(オリジナル設計社長)